仕事の窓6
農林水産部

キッチンの排水口のその先は？
～汚泥（おでい）が肥料になるまで～

沖縄総合事務局では、地域資源を活用した肥料の生産について事例収集や意見交換を行っています。今回は、石垣市下水道課の取組として、石垣西浄化センターをご紹介します。

排水口のその先へ

みなさんが、キッチンやお風呂、トイレで毎日使っている水。その水が排水口に流れた後、どこへ行くのかご存じでしょうか。

石垣市にある石垣西浄化センターでは、家庭などからの排水を処理し、きれいな水にして海に放流しています。排水をきれいにするために活躍しているのが微生物です。汚れを分解し役目を終えた微生物は、汚泥として施設内に蓄積します。


石垣西浄化センター

熱源にもなる汚泥

浄化センターでは、たまった汚泥からガスを発生させ、ボイラーの燃料にしています。燃料には重油も使いますが、ガスを貯蔵し効率的に使用することで、化石燃料の削減に取り組んでいます。


汚泥からのガスを集める設備

そして畑の栄養に

さらに残った汚泥を、遠心分離機で脱水し、先ほどのボイラーで乾燥させると、農業に欠かせない肥料となります。施設を維持管理する㈱西原環境おきなわでは、年間１６０ｔほどの肥料を製造し、農家へ提供しています。ボイラーでしっかり乾燥させた肥料は臭いも少なく、農家に好評です。

排水口からさとうきび畑へ

製造された肥料は石垣市内のさとうきび畑などで活用されています。石垣市の担当者によると、この肥料を使った農家から「さとうきびの生育が良くなったから見に来て！」と畑に案内されることもあるそうです。

汚泥は、廃棄物として処理するとコストも手間もかかります。また、日本で使われる化学肥料はほぼ全量を輸入に頼っています。このような中、地域にある資源を肥料として活用するこの取組は、持続可能な社会の実現に向けた好事例となっています。


しっかり乾燥した肥料は使いやすい


汚泥から生まれた肥料はさとうきび畑へ

▼お問合せ先
農林水産部　消費・安全課
☎０９８－８６６－１６７２